

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

GREETINGS FROM BOSTON!

David Knapp

Dear Members of Nihon Boston Kai:

It is an honor and a pleasure to have this opportunity to address members of the Nihon Boston Kai.

When I was in Tokyo the end of May, I had the pleasure and opportunity to meet with Mr. Nobu Kondo, who served as a vice President of the Japan Society of Boston when he was in Boston several years ago. During the course of our conversation, I was very pleased to learn about the Nihon Boston Kai. I am impressed that for those who have lived and worked here, Massachusetts and the friendships and associations formed while living here remain a strong and important part of your lives here.

As many of you may know, Japan Society of Boston has continued to play an increasingly active role in educating our community about Japan and bringing Japanese and Americans together through our activities, programs and services. After a very successful yearlong series of programs celebrating the Society's

90th Anniversary in 1994, we have begun to look towards the Centennial of the Society in 2004 and put in place plans to ensure that the organization continues to be vital well beyond this important anniversary.

One of our goals is to attract the younger generation, both Americans and Japanese, to the Society.

Another is to make the organization more accessible. We took a big step forward in working to accomplish both of those goals in setting up a presence on the worldwide web.

We do hope that if you plan to visit Boston you will let us know and in the meantime come visit us at www.us-japan.org/japamboston.

Best wishes to all the members of the Nihon Boston Kai from all of us in Boston.

Sincerely,

The Japan Society of Boston, Inc.

David Knapp

President

July 28, 1997

総会・懇親会のお知らせ

日時：平成9年10月24日(金)午後6時開場、午後6時半開会
場所：NEC三田ハウス芝クラブ
港区芝5丁目21番地7号、電話 03-5443-1400
会費：当日払 お一人6000円/同伴者5000円
事前銀行送金 お一人5000円/同伴者4000円
送金先 第一勧業銀行浜松町支店芝浦：
普通預金口座番号 15781
申込先：日本ボストン会事務局 (同封集書)

条約交渉の地はいかにしてポーツマスに決まったか (その3)

ニューイングランドと日本の歴史の会WG

藤盛 紀明

前回はポーツマス条約の結果と小村寿太郎の性格が日本を第2次世界大戦に巻き込んだ遠因の一つではないかと言う報告をした。

第2次世界大戦の発生原因には現在でも色々な議論がある。米国のアジア進出戦略と日本の対外拡張戦略のぶつかりあいを読む人、日本の自衛を読む人、米国特にルーズベルト大統領が、何故日本を強く敵視するようになったかは興味ある研究対象である。

「There Are No Victors Here」ではルーズベルト大統領は始め日本を支援していたが、日露戦争の結果、日本の力が強くなり過ぎたことを懸念し始め、極東地域の力の将来バランスを考慮したことである。

さて今回は少し力を抜いて、条約交渉の開催地が米国ポーツマスになったいきさつを考察してみたい。

「There Are No Victors Here」ではポーツマスに決定した経過を次のように紹介している。

ロシアは始め開催地についてはパリを希望し、日本は中国のChefoo(山東省の渤海側の町だが漢字名は不明)を希望した。ルーズベルト大統領はオランダのハーグを提案した。結局最後にロシアが米国のワシントン市を提案し、日本もこの案に同調した。しかし、ワシントンの夏の酷暑を考えて、ルーズベルトは快適な気候の米国東海岸を提案した。

東海岸で最初に候補地にあがったのは、1905年7月7日のポーツマスヘラルド紙の第一面の報道によればNew CastleのHotel Wentworthが第一候補で、The Isles of Schoalsも候補地であった。

さらにはNewportやBar Harborも名の知られたエレガントな東海岸として候補地であった。

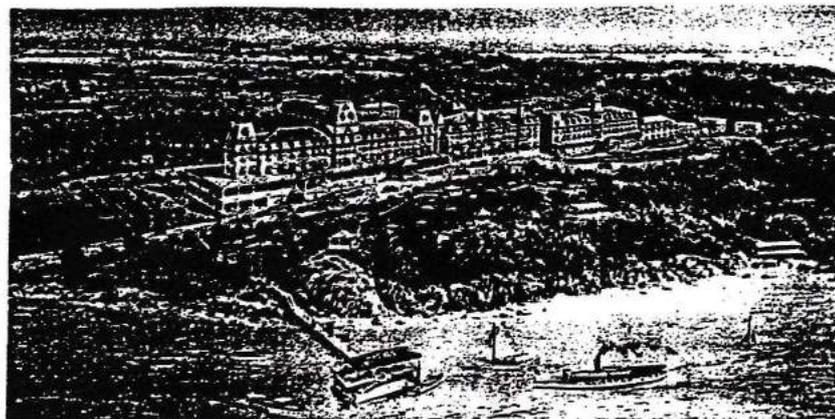
最終的にはルーズベルトの側近がポーツマスを選択した。その理由は他の候補地に比較して夏のリゾートとしては混雑しないと言う理由であった。

Hotel Wentworthは結局は両代表の宿舎となり、最近の保存運動は本会報でも掲載した所である。本号でも現ポストン総領事の河東氏が報告しているところである。我々もドライブで何度か傍を通った事があるが、海岸近くに瀟洒なゴルフ場を持つ素敵なホテルであった。当時の写真を示すがいかにも優雅である。

私は個人的にはNewportよりもBar Harborの方が好みである。

Newportはご存じのように豪華なマンションのある地域で、ポストンやニューヨーク等の東海岸に住んだ事のある人なら一度は訪れる観光の名所である。しかし私にはNew Money(いわゆる成り金)に見えて好みではない。

一方Bar Harborは東海岸唯一の国立公園Acardiaにある素晴らしい場所である。Acardiaはかつてロックフェラー一族が所有していた島のような半島?である。私は家族と一緒にふた夏を過ごした事がある。海、入り組んだ湾、丘のような山、美しい湖、緑、ゴルフ場、格安のロブスターレストランなんでもある所である。世界中で最も素敵なリゾート地ではないかと密かに思っている。ゴルフ場は我々以外にプレーする人がいなく、クラブハウスは古い木造作りで、いかにも古き良きニューイングランドの雰囲気である。但し夏にはWASPらしい老夫婦達がビクトリア風のInnを占拠するので、アジア人の我々は少しプレッシャーを感じる。実際(続く)



The Hotel Wentworth, 1908, as it looked when the conference delegates were in residence. Mr. and Mrs. James Barker Smith collection.

WENTWORTH-BY-THE-SEA HOTEL 保存・修復の現状について

在ボストン総領事 河東 哲夫 (かわとう あきお)

ボストンに着任してから 1 年 3 ヶ月経ちましたが、この間 6 回もポーツマスに往復することになりました。ポーツマス—ボストンから車で北東に約 1 時間、ニュー・ハンプシャー南部にあるこの海岸の古い美しい町は 1905 年、日露戦争の後、いわゆるポーツマス平和条約が結ばれた地として有名です。

条約が署名された海軍基地の部屋は、米海軍の好意で最近になって部分的に修復され、見学には事前の許可が必要なものの、日本からを初めとする多くの人々が訪問しております。この海軍基地から車で 15 分程のニュー・キャッスル町の海岸の丘の上に、WENTWORTH-BY-THE-SEA HOTEL が、その白い瀟洒な姿を聳えさせています。このビクトリア様式の古いホテルは、1905 年日露の代表団が滞在したところとして有名ですが、皆様ご案内のとおり、この 16 年間閉鎖され、買い手もみつからないまま取り壊しの危険もささやかれてきました。

しかしながら、貴会員の皆様の貴重なご寸志も得て、同ホテルは現在に至るまで何とか取り壊されずに残っています。そして本年 2 月には、OCEAN PROPERTIES LIMITED という米国ホテル・チェーンがこれを買取り、来年夏には部分的にも再開業にこぎつけたいとの意向を明らかにするに至っております。WENTWORTH-BY-THE-SEA HOTEL 保存、再開業の見通しは、ぐんと明るくなったと申せましょう。

但し、まだいくつかの問題が残っています。一つは建物が古いため、ホテルとして今日の建築基準との調和を図らねばならない他、ホテル玄関前の州道の位置をずらして車寄せの場所を確保しなければならないようです。この許可がとれない場合、OCEAN PROPERTIES LIMITED は、このホテルを現所有者の GREEN COMPANY に返上する権利を留保しています。

もう一つは、開業後のホテルの利用確保、そして一階の資料展示室開設の問題です。

OCEAN PROPERTIES LIMITED は、10 億円以上が予想される修復費について外部の支援は求めておりませんが、秋から春の閑散期の利用促進、そしてホテル 1 階に開設を予定する資料展示室への外部の支援を期待しています。資料展示室への支援については、

日本政府で目下対応を検討していますが、これまで右ホテルの保存運動をしてきた「ウエントワース友の会」は、右展示室をポーツマス条約のみに関わるものでなく、ホテルの歴史全体に関わるものにしたというであり、ここにも調整の余地が残っています。

ポーツマスの日本協会は、このホテルをアスペン研究所に匹敵するような、国際的的交流の一つの中心とし、大学、企業等のセミナー、シンポジウムのための利用を促進するアイデアを有していますが、これもホテルの再開の見通しがもう一つ明確にならないと、本格的には準備を進められない状況にあります。

というわけで、このホテルが往時の姿を取り戻すことが出来るかどうかは、これから 1、2 ヶ月の展開に大きくかかっており、日本政府としてはこれがうまく進むことを見極めつつ、支援策を更に具体化させていきたいと考えています。このホテルにはヨット・ハーバー、テニス・コート、ゴルフ場が隣接している他、別荘も売り出されています。またホテルからは、KITTELY の OUTLET と呼ばれるショッピング・センターがすぐ近くで、観光基地として優れた立地条件にあります。来年には、ここに日本ボストン協会の皆様も宿泊出来るように、総領事館としても更に側面支援をしていきたいと思っております。

(了)

条約交渉の地 (2 頁から続く)

我々は予約を断られたが、WASP の友人 (ロックフェラーの孫娘の元の恋人) に頼んだら予約が出来た。Isles of Shoals と言うのは知らない。かって Cape Cod からナンタケット島に行った事があり、大変感激した事がある。海へ長く伸びる砂州を歩くと海の中を歩いているようである。この島のバスケットは皆さんもご存知で、皇后様もお買い上げなさったとの事である。アメリカで唯一食事のおいしい場所でもある。Isles of Shoals もこのような場所であろうか。誰か写真をお持ちならば是非見せて頂きたい。

結論としてポーツマスが選択されたのは妥当であったと思っている。(この項終わり)

HELP!

ゴルフ会の BB、BM 脱出したし

藤盛紀明・富美子

6月4日、名門ゴルフ場として知られている日本カントリークラブで恒例のコンペが行われ、我々は夫妻で参加しました。今回は女性陣常連の當間夫人、土居夫人や金子夫人がご都合で欠席され、少し寂しく思いました。當間さんご夫妻とは2月の初めにサイパンのラオラオクラブにご一緒しましたので、奥様のご欠席は大変残念でした。

関越道を通るといので船橋に住む我々には交通が大変かと思いましたが、京葉道路、首都高、外環道路、関越道路経由で行きも帰りも混まずに済み、快適でした。

天気も良く、仲間も良く、楽しいゴルフでした。しかし大きな問題が一つだけありました。それは我々を除いた他の参加者が大変お上手な事です。そのせいか、我々夫婦でブービーとブービーメーカーとなる栄誉を頂きました。実際は我々のスコアが二人とも120をオーバーするものでしたので、誰が参加されても我々がこのポジションを占めたのは間違いありません。

しかし次回は是非120や130以上のスコアで回る会員の参加を期待します。さもないと、我々夫婦は永久にブービー幹事から脱出出来ません。

我々も随分と練習しスコアを上げようと努力していますが、どうも先天的なものがあるようです。一般にご主人が上手だと奥様は上手になるようですが、我々にはその希望もなさそうです。そこで気持ちを切り替えて、スコアにこだわらずにボストン会の仲間とひたすらゴルフライフを楽しむ事にしました。

日本ではティーショットを気に入る迄打つモレガンやメンバーのショットの一番良いショットの所から次打を打つテキサスルールは出来ませんが、下手でもそのよう和気あいのゴルフライフが最高です。

乞うビギナー！乞うハンデ36プレーヤー！です。

ホームステイ先募集!

11月8日(土) 昼/9日(日) 昼迄
メドフォード女性教師3人

例年どおり3人の先生方が来日されます。

学校見学、京都、広島などへは、国際教育情報センター(外務省外郭団体)の方が案内されます。

1週間の滞在の中で1泊だけですが、日本の普通の家庭をみせて戴けませんか。

昨年は、3家庭にそれぞれ泊まり、お鍋を囲みながら、ボストンの思い出や日米の文化、教育の違いを語り合いました。なかなか旅行では家庭生活までは見ることができないので、大変喜んでいただきました。今年のホームステイ先を募集します。受入れ可能な方は、日本ボストン会事務局までご連絡下さい。(連絡先は下記ハイキングの会と同じ)

ハイキングの会から

8月末に八ヶ岳方面に一泊ハイキングを企画しましたが、集まりが悪く成立しませんでした。

次回は、11月頃に、近くで2-3時間位歩きたいと思っています。

ご案内を差し上げますので、ご希望の方は下記までご連絡下さい。

土居陽夫・嘉子

「歴史を飲もう会」から

昨年11月、岡倉天心をテーマに千駄木で行った飲もう会のシリーズ後編として、茨城県五浦海岸にある天心ゆかりの「六角堂ツアー」と当地名物「あんこう鍋で歴史を飲もう会」を企画しております。来年1月31日(土)。日帰りツアーをベースに現在計画中です。興味のある方は奮ってご参加下さい。

ご希望の方は下記までご連絡下さい。

金子佳生・邦子

Picasso 展(1892-1906) (Boston 美術館) 美術同好会

8月13日、ボストン美術館を訪れた日はカナダの
モントリオールで過ごした数日に比べても蒸し暑
かった。館内は一階のカフェテリア辺りで改装中の
せいもあり、何となくざわめきさえ感じた。

9月10日よりボストン美術館で、Picasso
1892-1906 年展が開催される。スケッチ、デッサン、
エッチング、水彩画、油絵合わせて182 作品である。
青の時代以前の作品が多く展示されるのも今回初め
での試みである。

Picasso (1881-1973)の1894年から1895年
の作品はしいたげられた人々への憐れみ、ときには
感傷的な画面がブルーの織りなす色彩によってより
誇張され、描かれている。

1900年の秋、Picassoはバルセロナ時代の
友人である画家Casagemasとパリを訪れた
最初のパリ滞在であった。ところが1901年2月17日
のことである。Casagemasは恋に破れ、モ
ンマルトルのレストランでピストル自殺をした。
この為Picassoは彼を連れてパリを去らねば
ならなかった。

この出来事は痛くPicassoを悲しませた。
1901年の秋に描かれた「Casagemasの埋
葬」はEl Guecoの埋葬シーンの改作と言わ
れる。若きCasagemasの死を悲しむ人々、
そして天に導く白馬の姿が描かれ、初期の頃と比べ、
やや抽象的表現である。

1903年のPicassoの作品「人生」におい
ても、Casagemasを描いている。青の時代の
代表作と言われるこの作品は、男女の抱擁、そして
母性愛をテーマに画面いっぱい大きく描かれ、青
春の愛の激しさがひしひしと観る人に伝わってくる。

1904年4月バルセロナからパリに移り住み、作品
「アイロンをかける女」、「サーカスファミリー」
等、次々の意欲的に作品に取り組むPicasso
であった。そして1905年に始まるばら色時代では
「ばら色の裸婦たち」を発表する。

1892年から1906年にかけてのPicasso青春
の頃の182 作品は時代を越えて新たな感動を与えて
くれるでしょう。楽しみな展覧会である。

(8/26/'97 酒井典子)

ボストンガイドブック

ボストン日本人会 (会長田中豊一) では、駐在員、
留学生向けのボストン生活の手引き「ボストンへよ
うこそ」(改訂版)を発行しました。

購入希望者は、住所、氏名、電話番号、部数、渡
米される方は出発予定日を明記の上、下記宛に葉書
にてお申し込み下さい。受取次第、本と郵便振替用
紙を送ります。頒布価格一部2500円(送料込)

インターネット(オーダーフォーム):[http://www.jpnnet.com/manual/
boston/order2.html](http://www.jpnnet.com/manual/boston/order2.html)

第5回ゴルフ親睦会

ボストンOB、OGの皆様との懇親ゴルフ会を開
催いたします。腕に覚えのある方も無い方も奮って
ご参加下さい。秩父連山を望む雄大なコースです。

日時: 1997年11月13日(木)午前8時15分集合

場所: UNION ACE GOLF CLUB

(電話 0494-77-1234)

(関越自動車道、花園ICから35分)

募集人員: 4組16人(先着順)

スタート: 西コース午前9:06, 9:12, 9:18, 9:24

費用: 2万円見当(参加費、プレー費、
昼食、パーティ代等)

申込み先: 近藤宣之

藤盛紀明

事務局

地図: 参加者宛別途送付

「音楽の会」から

毎年、C&Cクラブコンサートとして、音楽会と
カクテルの会を開いています。

昨年は10月24日、綱町三井クラブで世界的チェリ
スト、マリオ・ブルネロが演奏しました。大変音
楽的な素晴らしい演奏で、皆感激しました。日本ボ
ストン会からも数人参加して下さいました。

今年は11月20日(木)エリザベートコンクール第
1位戸田弥生さんのバイオリンコンサートを開く予
定で現在交渉中です。参加ご希望の方はご連絡下さ
い。(佐々木浩二・涼子)

幹事会記録

1997年6月10日(火) 出席者15人

- *ボストン日本人会との連絡打合報告
4月16日、帰国中の吉野先生を囲み、代表幹事・副代表幹事が会食した。
- *歴史の会
今回は岡倉天心ゆかりの北茨城の六角堂見学予定。(別項参照)
- *ハイキングの会
夏に高原一泊旅行を計画。(別項参照)
- *お花見の会
4月4日(水)千鳥が淵にて夜桜見物。大変好評であったので、来年も計画予定。
- *ゴルフ会
6月4日(水)、日本カントリークラブで開催した。優勝は近藤さん。(別項参照)
- *音楽の会
C&Cの音楽会を是非会員にご案内したい。
- *ウエントワースホテルの復旧プラン
原稿をボストン日本人会に要請。(別項参照)
- *JAPAN SOCIETY に原稿要請。(別項参照)
- *ボストンガイドの頒布報告(手持ち在庫58冊)
- *会報第10号発行(8月末原稿締切 9月末発行)
1997年9月11日(木) 出席者17人
- *1997年度総会・懇親会準備打合
開催日:10月24日(金)午後6時
場所:NEC三田ハウス芝クラブ 301号室
- *会報第10号寄稿原稿報告・発行準備打合
9月末発行。総会案内と共に送付予定。
- *WG活動予定報告
ゴルフ会(別項参照)
歴史の会(別項参照)
ハイキングの会(別項参照)
音楽の会(別項参照)
- *NEC ウェントワースの現況(ボストン日本人会)
河東在ボストン総領事よりご寄稿を頂く。(別項参照)
- *名古屋・金山南EM(地上31階建)建設報告
11階迄建設中、明後年4月ボストン美術館開館予定。
- *ボストン日本人会役員の日本ボストン会担当選任要請
柳沢幸雄氏の後任役員選任方要請を決定。
- *ボストンガイドの頒布報告(手持ち在庫36冊)
- *新会員勧誘につき意見交換

(事務局)

会報第10号発行を迎えて

会報発行WG

日本ボストン会が1992年(平成4年)秋に発足してから、早いもので五年が経ちました。

思い起こせば、藤盛紀明・土居陽夫両氏が中心となり、同年9月11日(金)夕方から藤盛氏の事務所の会議室をお借りして、最初の集まりが開催されました。今回は10月19日(月)夕方から東京工業大学100周年記念館において準備会が開催され、この日の参加者は次の12人でした。

吉野耕一先生、藤盛紀明夫妻、佐藤文則氏、和田章先生、米田隆一氏、酒井一郎氏、土居陽夫夫妻、神部信幸夫妻、俣野善彦。

リーダーシップに富む藤盛氏のエネルギーな行動力に圧倒されて、当日集まった方々が世話人の中核となり、設立総会は同年10月30日(金)夕、東京工業大学100周年記念館にて開催されました。

本会の会則は神部氏が起草し、同年9月11日および10月19日の両日、草案を審議して作成、設立総会に提案し、数年の実施期間において、将来の総会において承認願う形を取り、その間は入会金と初年度会報費用として5千円を申し受けることとして発足しました。

本会発足後の数回の幹事会において前述の世話人の他に、金子佳生夫妻、佐々木浩二夫妻、當間秀雄夫妻、柳沢幸雄夫妻、近藤宣之夫妻、Miz・Taro さんが幹事として参加戴けることになり、幾つかのワーキング・グループ(WG)の設置も決定されました。

幹事はどれか一つのWGを担当することになり、ボストンにおける情報収拾を担当する米田隆一氏と会報発行でペアーを組み、当時、新しく買入れて富士通オアシスのワープロの使い方を実地に勉強する気持ちで参加しました。

会報は年2回発行することになり、初めのうちは、半年ごとに前回の操作を思い起こすのに手間取り、レイアウト編集・印刷の扱い方にまごつき、苦勞させられました。

幸いこれまでに会員の皆様からのご協力が得られ、1993年(平成5年)4月に創刊号を発行して以来5年が経過し、気がついてみたら第10号を皆様に読んで戴くことになりました。今回は初めて英文の原稿も戴きました。今後共皆様方からのご投稿をお待ちしております。(俣野善彦・真由美)